Textile International Forum and Exhibition 2001

中 村 靖 夫

1. はじめに

昨年 11 月 14 日から 16 日に台北市で開催された Textile International Forum and Exhibition 2001 (TIFE 2001) に京都工芸繊維大学梶原莞爾教授と参加させていただいたので、その状況等を報告させていただきます。この行事は昨年度初めて台湾政府がスポンサーとなって開催された一大イベントで、WTO への加入をはじめ日本とは別の面で転換期を迎えつつある同国の繊維産業の今後の方向を検討する活動として、大変興味深いものであり、わが国の繊維産業、技術を考えるうえでも大いに参考になるものであり、ここに紹介させていただきます。

2. TIFE 2001 概要

TIFE 2001 は中国語では「2001 紡織科技國際論壇暨研發成果展」と称され、大きくは図 1 に表されている 6 つのイベントが行われました。これらの各イベントの内容、状況について以下記載しますが、全参加者は 12 カ国、1200 団体、1800 名と大盛況の内に実施されました。組織としてはスポンサーが経済省産業局(MOFA)、主催が中国紡織工業中心(CTI)、工業技術院化学工業研究所(ITRI)、台湾織

維連盟の 3 団体と共催に 6 団体、支援として外務省、外交関係国、展示企業、大学等多数とまさに国を挙げての一大イベントでした。開催場所は開会式、フォーラム、セミナー、展示会は台北国際コンベンションセンター(写真 1)で、

写真 1 会場の台北国際コンベンションセンター

歓迎パーティは隣接するグランドハイアット台北ホテルで開催されました。

3. 開会式・マルチメディアダイナミックショウ・特別講演

第 1 日目の 11 月 14 日午後より政府要職、産業界代表等多くの来賓が列席の中で TIFE 2001 Huang 議長の開会の挨拶(写真 2)、Lin 経済省副大臣他来賓のお祝いの言葉で開会式が行われ、続いて映像による CTI の研究成果の紹介(内容については展示内容の項で説明)、ファッション

図 1 TIFE 2001 ポスター

. Opening ceremony

. Forum of Strategy

. Welcome Dinner and Gala Night

. Seminars of TIFE 2001

. Exhibition of New Era Textile Technology

YASUO NAKAMURA
三菱レイヨン株式会社 顧問
〒214-0014 川崎市多摩区登戸 3816
Tel: 044-933-9111
e-mail: nakamura_ya@mrc.co.jp
〈専門〉合成繊維新素材開発等
〈趣味〉写真

写真 2 TIFE 2001 Huang 議長の開会の挨拶

ショーが催された後、DuPont Apparel & Textile Sciences, Global Apparel の William Ghitis 社長による「DuPont の繊維関連事業の経営戦略」と題して特別講演がされました。DuPont Apparel は世界に 20 億米ドルの合繊を供給し、70 カ国に 20 の製造工場、10 の研究所、9000 人の従業員からなっていますが、国際的な供給チェーンを経営する能力、リーディングブランドとのマーケットパートナーシップ、顧客の要求を高めるために毎年国際的なマーケット予算として 6 千万米ドルの投資を行うことを特徴としている企業です。Ghitis 氏の講演の中でアパレル産業においては影響力ある顧客グループとの関係を再構築すること、コストでなく価値に再注視すること、すなわち価値を創造する革新とその価値を広める強力なブランドが必要であるとの話と、LYCRA ブランドを例として過去はスパンデックス繊維のための DuPont ブランド、今はストレッチベネフィットのための DuPont ブランドとの話が大変に興味を抱きました。ブランドそのものを戦略と位置付ける同社の経営は、日本の企業がこれから本当に重要な課題とよく理解できた講演でした。

4. 戦略フォーラム

休憩の後、円形会議場に場所を移し、戦略フォーラムが開催されました(写真3)。CTI の Huang 会長が議長を勤

写真3 戦略フォーラムの会議場

められ、主要パネリストとして海外からは米国は DuPont の Global Apparel の William Ghitis 社長、英国は David Rigby Associates の Rigby 会長、日本は梶原教授、香港は香港ポリテクニック大学の Kwok-Wing 副学長、米国 Drexel 大学の Ko 教授が紹介され、セミナーでのその他の講演者、CTI はじめ台湾の主要な繊維関連者の約 60 名で、中英同時通訳付きで開催されました。最初に CTI の Yao 総経理から「繊維産業の背景」についてのテーマで、1) 台湾の繊維産業の現状、2) 台湾の繊維産業発展でのボトルネック、3) 世界の繊維産業の現状が豊富なデータに基づいて報告されました。台湾繊維産業の現状のまとめとして、1) 貿易収支黒字産業の重要な産業であり、主要輸出先は香港、中国(PRC)、米国であること、2) 最終繊維製品が繊維輸出の 62% 以上を占める主要な輸出品であり、またその輸出の 80% は化学繊維によるものであること、3) 資材用繊維

製品の輸出は約 350 億台湾ドルに達したが未だ発展段階であること、4) 資材用繊維の市場はおおよそ 720 億米ドルで成長過程にあり、今後の方向であること、5) 国際競争の中で 2001 年は輸出は 15% 減少の予測が報告されました。また世界の繊維産業発展の認識(Role Model)として、1) EOC-繊維が今後の方向、2) 技術の積み重ねによる相乗効果による高い付加価値のある繊維の製造が新しい方向、3) 高齢化社会の到来に対応した健康、快適、医療介護製品が今後の R&D の方向、4) より繊細に、より美しく、より強く、より優しく、より快適な、より安全な、よりロングライフで、より速いことが今後の産業のキーワード、5) 繊維産業の製造技術と装置において「システムインテグレーション」と「インターネットワーキング」が来るべき世紀に必要な過程であり、これらは市場ニーズへのクイックレスポンスと企業間でのマーケティングセールスのキーテクノロジーであると報告されました。ついで CTI の Bai 副総経理から「フォーラムのゴールとトピックス」のテーマで本フォーラムの議題とその考え方についての説明が詳細になされました。議題 A は世界的な競争と協力のコンセプトの基に先進国の繊維産業の発展についての議論、議題 B は世界的な競争と協力のコンセプトの基に台湾の繊維産業が競争の優位性を構築するためにいかに発展し、国際的な創造的な R&D システムに参加していくかについての議論であり、各議題についてより具体的な考え方が説明されました。両氏の発表を基に各パネリストから多くの提言がなされ、これらの提言を参考にして最終的に本フォーラムの結論が議長よりつぎのように報告されて閉会しました(日本文は著者の訳によるものです)。

我国は WTO に加入後の国際競争の圧力に対応して、繊維産業は以下の事項をなさねばならない。

- 1) 国際的な配置での経済パターンを積極的に発展させ、情報電子化技術によって市場に対応し(open up)、迅速な経営をし、国際的な協力と戦略同盟を強化すること。
- 2) 機能とファッションを繊維製品の今後の開発の主軸としてとらえること。
- 3) 異業種とより上位、より下位のセクションとの統合を進展して、高付加価値の製品の開発を促進するために、国内合成繊維の競争力の優位性と結合すること。
- 4) 技術と環境保全の両者に重きを置き、政府の援助の基に産業の進歩に貢献すること。通常の衣服や繊維製品での開発を高付加価値のある機能的な繊維製品に転化するとともに、家庭用繊維製品やハイテク、ハイカルチャの繊維製品にも拡大すること。

5. 歓迎パーティ

第 1 日の夕刻からは主会場の国際会議場に隣接する台北グランドハイアットホテルの大宴会場で歓迎パーティ(歓迎ディナー・ギャラナイト)が開催されました。開会式同様に政府要人、業界代表者、招待講演者、行事関係者の他、

写真4 歓迎パーティ会場

写真5 歓迎パーティでのアトラクション

最近繊維について経済協力の提携を結んだ中南米6カ国の在日代表者夫妻も参加され中国式の多くの円卓テーブルを囲んだ300人以上の豪華な宴が催されました。ステージでは中南米との関係からラテンダンスの華やかなショーが一層会場の雰囲気を盛上げました(写真4、写真5)。

6. セミナー

セミナーは第2日と第3日の午前にわたり3会場に分かれ実施されました。第1会場は戦略、第2会場は技術、第3会場は市場経営/マーケティングをテーマとして、各会場で6講演、合計18の招待講演が行われました。表1にプログラムを載せましたが、16名の講師の内訳は米国5名、英国2名、ドイツ3名、香港1名、台湾5名、日本2名と文字通り国際セミナーの内容でしたが、国外は欧米からの招待者が多いのは同国の繊維産業となんらかの関わりが見られるのかどうか個人的には興味があるところでした。梶原先生は「日本の繊維産業の発展の戦略」について第1会場での最初の講演をされました(写真6)。私自身は第2会場の最終講演で「21世紀への日本の繊維産業の技術開発動向」について講演しました。会場はすべてイヤホンによる同時通訳付きで、また配布のレジメも英語版と中国語に翻訳された両者が用意され、参加者の理解への配慮がうかがえました。講演はすべてパソコン/プロジェクターで行われましたが、講演開始前に必ずスライドにより同時通訳のチャンネルの説明とともに、会場避難経路の

写真6 セミナーで講演される梶原教授

説明と携帯電話の使用制限の案内が行われたのも、今後学会での講演会等で参考になると思いました。私の講演内容は汎用繊維における日本の国内生産の世界シェアは約5%でもはや低位であるが、炭素繊維はじめ高強度・高弾性繊維、中空糸膜繊維、ポリ乳酸繊維、PTT等では圧倒的に世界のトップに居ること、ポリエステルの高強度化のプロジェクトや生体機能模倣繊維などより高度な技術開発が行われていること、すなわち繊維技術においては世界のトップに変わらず位置付けられること、そして大切なのは過去のように各社が同じ技術、素材を争って研究開発するのではなく、各社がそれぞれ独自性を重んじた研究開発、技術、製品、事業を構築しつつあり、このことは国際間においても今後重要であることを主旨として講演しました。余談ですが、私の講演の直前に会場のパソコンの状態が不調となり、急ぎで予備のパソコンに取り替えたせいか、事前のチェックでは問題なかったCDで持参したPOWER POINTの内容のうち、斜体にした数字がフォントの関係か全く映像化しませんでした。海外での講演時には英文でもパソコンも持参しない時は使用フォントに注意することが大切なのをはじめて経験しました。他の講演者の講演をすべて聞くことは出来ませんでしたが、一部参加した欧米の講師の方の講演はいずれもそのテーマに関する基礎知識の説明に大半を当て、1、2の最近のトピックスを話すのがかなり共通して見られた内容でした。

7. 展示会

戦略フォーラム、セミナーと並ぶメインイベントの展示会(Exhibition New Era Textile Technology)は会場の1階展示ホールを使用して会期中開催されました。展示内容はCTIの最近の研究開発成果を主に展示したものであり、初日の開会式の後にもその内容がマルチスクリーンを使用した映像によっても説明があり、動的な展示(説明)と静的な展示とリンクさせた興味ある方法でした。展示会場は安全館、快適館、健康館、e化館の4つのコーナーに分類されて展示されていました(写真7)。主な展示品は安全館では消防服等に応用される高温防護繊維、複合糸による耐切創繊維、真空スパッタリング加工による電磁波遮へい繊維、

表1 TIFE 2001 セミナープログラム

11/15/2001(Wed.)

Theme	Strategy	Technology	Market Management Marketing
9:30-10:30	Development Strategy of Japan Textile Industry Kyoto Institute of Technology, Professor Kanji Kajiwara (Japan)	Innovation Strategy of Smart Textile Products and High-tech Fashion Klaus Steilmann Institute(KSI), Dr. Astrid Ullsperger (Germany)	Intellection of Strategic Alliance of Industries Industrial Technology Research Institute, Executive Vice-President, Dr. Jih-Chang, Yang (ROC)
11:00-12:00	Development Strategy of Mainland China and Hong Kong Textile Industry The Hong Kong Polytechnic University, Vice-president, Dr. Yeung, Kwok-Wing (Hong Kong)	Development and Evaluation of Protective Textile Products with Multiple Function Hohenstein Institutes, Dr. Volkmar T. Bartels (Germany)	Market Development Trend of Industrial Textile Products David Rigby Associates (DRA), Chairman, Professor David Rigby (UK)
14:00-15:00	Development Strategy of Europe Textile Industry David Rigby Associates (DRA), Chairman, Professor David Rigby (UK)	Development and Application of Textiles with Phase Chang Material(PCM) Textile Testing and Innovation, LCC, President, Dr. Barbara Pause (USA)	How to Develop an e-Business Strategy to Enhance a Supply/ Distribution Partnership with Clients President of eBizprise Inc., Vice-President R&D of Computer Associates, Mr. Wenwey Hseush (ROC)
15:30-16:30	Strategy of Technology Development of America Industrial Textile Products Drexel University, Professor of Dept. of Materials Engineering, Director of Fibrous Materials Research Center, Dr. Frank K. Ko (USA)	New Multicomponent Fiber Technology, Application and Future Hills Inc. Business Unit Director, Dr. John Hagewood (USA)	How Traditional Industries to Carry Out Appropriate e-Business Strategy by Adopting The Global Trend of e-Commerce Oracle Taiwan Inc., Managing Director, Mr. Shao-Tang Lee (ROC)

11/16/2001(Fri.)

Theme	Strategy	Technology	Market Management Marketing
9:30-10:30	Recent Developments and Application for Hollow Fiber Membrane Kentucky University, Dept. of Chemical and Materials Engineering, Professor W. S. Winston Ho (USA)	Metalocene-Based Polymer for Fiber Industry The Dow Chemical Company, Director of Process Research, Ms. Leonie Walsh (USA)	The Role Played by Engineering Company while the Textile Industry Transforming Lurgi Zimmer AG, Director of Board, Mr. M. G. Mart I(Germany)
11:00-12:00	Development Strategy of Taiwan Textile Industry Chairman of Taiwan Silk & Filament Weaving Industrial Association, Mr. Lin Wen-Chung (ROC)	21 Century Japan Technological Development Trend Fiber Industry Counselor of Mitsubishi Rayon Co. Ltd., Vice Chairman of The Society of Fiber Science and Technology, Japan Mr. Yasuo Nakamura (Japan)	How can Textile Industry utilize Foreign Trade Promotional Agencies for Market Development & Investment Planning Central America Trade Office, Executive Director, Simon C. P. Hsing (ROC)

写真7 展示会場

快適館ではCTIではかなり精力的に開発を進めている、最近小松精練(株)が開発した特殊プロテイン微粒子を応用したエアコン機能搭載繊維「エアテクノ」のようなポリエチレングリコールやパラフィン等の相転移物質(PCM)のマイクロカプセルのブレンドやコーティングによる吸湿、放湿製品、超極細繊維の不織布をポリウレタン含浸された高透湿人工皮革、織物での水分の拡散速乾の評価方法も含めた高運動量吸水織物、健康館ではメディカル用途へのキチン、キトサン繊維の開発、コーティングによる遠赤外線繊維、圧力治療に用いられるストレッチ性、均圧性テキスタイル等が印象に残りました、各ブースには必ずCTIの研究者が常駐して説明を担当していました、ちなみにこのイベントの開催中は約300名のCTIの所属員の1/3近い方々が本会場の運営等に参加されたとのことでした。

8. おわりに

TIFE 2001に参加しての最大の印象は繊維産業は台湾にとって現在も輸出額の第一品目であり、それだけに今後の同国の繊維産業の動向は経済全体への影響も大きく、国を挙げて必死に今後の方向を定めようとしている熱い活力を感じたことです、またその活動の中で中国紡織研究中心(CTI)の果たしている役割の大きさも身をもって感じました、最後になりますが今回のセミナーでの講演に当たって資料の提供等をいただきました東京工業大学の鞠谷教授はじめ各企業の皆様方、日本化学繊維協会、谷繊維学会事務局長にこの稿をお借りして厚く感謝申し上げます、またTIFE 2001参加時にはCTIの多くの方々に親身の対応をしていただき、とくにご親戚にご不幸がありながら私の講演の座長と担当いただいただけでなく、何かとお世話をいただいたCTIのChiou高級顧問、滞在中私のアテンド役としての木目細かい配慮をいただいたLee研究員、自家用車で空港まで出迎えて下さったGuu研究員、そして本記事を記載するにあたって写真、資料を提供いただいたBai副総経理、Chiuトレーニングプロジェクト経理に心からお礼申し上げます、今回のTIFE 2001が多大な成果を得たことが評価され、本年度はTIFE 2002 Asiaが計画されていると聞いています、当学会からも積極的に参加して、状況が異なる互いの繊維産業ではありますが、今後お互いの環境を活かして両国のみならずアジアの繊維産業が共存共栄する方向を見出し役立つことを期待します。

平成14年度 工学教育連合講演会

本格実施が始まった技術者教育認定制度—JABEE 審査・認定を受けるに当たって—

主催：日本工学教育協会 共催：繊維学会 ほか 後援：文部科学省(予定)/経済産業省(予定)

協賛：日本経済新聞社、日刊工業新聞社、日本工業新聞社(予定)、日本工学アカデミー

日時：平成14年5月18日(土) 9:30~18:00

場所：中央大学理工学部5号館5階5534号室

〒112-8551 東京都文京区春日1丁目13番27号 電話：03-3817-1711

交通：営団地下鉄丸の内線/南北線後楽園駅徒歩5分、都営地下鉄三田線/大江戸線春日駅徒歩7分、JR総武線各駅停車水道橋駅徒歩10分

会場地図は、中央大学ホームページ(<http://hawk.ise.chuo-u.ac.jp/KORAKUEN//index.html#access>)参照

定員：495名(先着順、当日受付も行います) 会費：共催学会会員 3,000円 非会員 5,000円

プログラム及び参加申込の詳細は下記にお問い合わせ下さい。

工学教育連合講演会事務局 社団法人 日本工学教育協会

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館4階(担当：大内)

TEL: 03-5442-1021, FAX: 03-5442-0241, E-mail: ouchi@jsee.or.jp ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsee/>